

寅さん歩 その 26

東京の主要道路の起点～終点

葛西橋通り－1



平野 武宏

道路名の標識・経路案内標識や標識の数字・その形に興味を持った寅次郎、東京の主要道路を起点から終点まで道路標識を頼りに歩いて、各交差点で交差する道路を学びたいと思い、2021年10月から「不忍通り」、「白山通り」、「春日通り」、「明治通り」、「昭和通り」、「平成通り（番外編）」、「靖国通り（元 大正通り）」、「内堀通り」、「目白通り」、「目黒通り」、「本郷通り」、「世田谷通り」、「江戸通り」、「外堀通り」、「山手通り」、「環二通り」、「外苑東通り」、「外苑西通り」、「永代通り」、「中央通り」、「桜田通り」、「新大橋通り」、「日比谷通り」、「清澄通り」、「晴海通り」、「新宿通り」、「青山通り」、「玉川通り」、「尾久橋通り」、「尾竹橋通り」、「言問通り」、「墨堤通り」、「多摩堤通り」、「三ツ目通り」、「四ツ目通り」、「早稲田通り」、「浅草通り」、「六本木通り」、「池上通り」、「駒沢通り」、「海岸通り」、「清洲橋通り」、「井ノ頭通り」と歩いてきました。

今回は「葛西橋通り」を歩きます。葛西橋通りは江東区永代通りの永代二丁目交差点を起点に、江戸川区東葛西三丁目の浦安橋（千葉県との境）に至る延長約9kmの道です。写真右上は葛西橋通りの道路名標識（都道475号線）です。途中から道路名は都道10号線に変わります。掲載の写真は人や車の密を避けた時間帯に撮影しました（一部は以前の訪問時に撮影したものもあります）。詳細を知りたい方は各道路のホームページをご覧ください。最寄駅は交通機関を利用した場合の代表駅です。

バーチャルウォークの途中経過も報告します。

[永代二丁目交差点] 江東区永代二丁目

最寄駅 都営地下鉄大江戸線 門前仲町駅

永代通り（都道10号線）の永代二丁目交差点（写真下右）が葛西橋通り（都道475号線）の起点です。写真下右の左へ行く道が葛西橋通りです。写真下左の交差点で葛西橋通りの道路名標識は左角が直角で起点を表しています。



[深川一丁目交差点] 江東区深川一丁目

最寄駅 都営地下鉄大江戸線 門前仲町駅

深川一丁目交差点（写真下右）で清澄通り（463号線）と交差します。左へ行くと駒形橋方面、右へ行くと月島方面です。



[陽岳寺・冬木弁天堂] 深川一丁目・冬木

深川一丁目交差点左角に「陽岳寺」（写真下左）があります。説明板には「1637年（寛永14年）創建の向井忠勝を開祖とした寺で墓もあるとのこと。向井忠勝（1582～1641）は徳川二代将軍 秀忠に仕え、大坂冬夏の両度の戦では水軍を率い、摂津尼崎へ出陣しました。1625年（寛永2年）父の跡を継ぎ、子孫は代々船主手順の職を世襲しました」と記載。

陽岳寺の左側には「法乗院（ゑんま堂）」があります。寅さん歩 452 清澄通り一2をご覧ください



更に進むと左側に「冬木弁天堂」（写真上右）があります。説明板には「材木商の冬木五郎右衛門直次が1654年（承応3年）江州竹生島（現在の滋賀県）の弁財天の分霊を日本橋茅場町の邸内に祀り、1705年（宝永2年）その孫、弥平次がこの地に移したと伝えられています。冬木家はここ冬木一帯に広大な屋敷を構える豪商で地名も冬木家にちなみます。深川七福神の弁財天として親しまれています」と記載。

[亀久橋・大和橋] 平野町二丁目・木場三丁目



葛西橋通りの左側は仙台堀川が流れています。仙台堀川にかかる「亀久（かめく）橋」（写真上左）が左に見えます。仙台堀川から平久（へいきゅう）川が分岐（写真左）します。葛西橋通りは平久川にかかる「大和橋」（写真上右）を渡り、進みます。

[都立木場公園前交差点] 江東区木場三丁目

最寄駅 東京メトロ東西線 木場駅



都立木場公園前交差点（写真上右）で三ツ目通り（都道 319 号線）と交差します。左へ行くと言問橋方面、右へ行くと辰巳方面です。都立木場公園は寅さん歩 三ツ目通りー1 をご覧ください。葛西橋通りは両側にある都立木場公園をつなぐ木場公園大橋（写真左）の下を進みます。

[崎川橋・茂森橋] 江東区平野四丁目・木場四丁目



写真上左の「崎川橋」は仙台堀川にかかり、写真上右の「茂森橋」は葛西橋通りにあり、仙台堀川から分岐の大横川にかかります。

[東陽六丁目交差点] 江東区東陽六丁目

最寄駅 東京メトロ東西線 東陽町駅

東陽町六丁目交差点（写真下右）で四ツ目通り（都道 465 号線）と交差します。左へ行くと錦糸町方面、右へ行くと東陽町方面です。葛西橋通りはここから都道 10 号線です。



[豊砂橋] 江東区東陽七丁目

最寄駅 東京メトロ東西線 東陽町駅

仙台堀川から分岐した横十間川の上にある「豊砂橋」を渡ります。「横十間川親水公園」の標識があり、下に降りてみました（写真下右）。



[南砂四丁目交差点] 江東区南砂四丁目

最寄駅 東京メトロ東西線 東陽町駅

南砂四丁目交差点（写真下右）で明治通り（都道 306 号線）と交差します。
左へ行くと亀戸方面、右へ行くと新木場方面です。



今回はここまでとします。

[バーチャルウォーク途中経過]

八柳修之さん作成の多くのバーチャルウォークコースがFWAホームページ「YR・四季の道」に掲載されています。寅次郎、バーチャルウォーク「東海道五十三次」京上りに挑戦しています。東海道五十三次はバーチャルウォーク「弥次さん 喜多さんと伊勢参り」で2021年（令和3年）9月から歩きました。寅さん歩 379 令和3年10月から掲載済です。

今回は宿場などを紹介しながらゆっくりと歩きます。現在やこれから東海五十三次を歩くウォーカーの皆様と街道途中でお会いするのを楽しみにしています。連絡を取り合って、どこかの宿でバーチャル宴会をしたいですね。皆様の旅の進度のご連絡をお待ちしています。

2023年8月8日お江戸日本橋（現在の中央区日本橋一丁目）を出発、2023年8月22日平塚宿（現在の神奈川県平塚市）（江戸日本橋から62km）に到着しました。各宿場は歌川広重の浮世絵（無料画像）や宿場などでの話題を紹介します。各宿場については八柳さんからいただいた「完全東海道五十三次ガイド（東海道ネットワークの会）」を参考にしています。



写真左は「平塚縄手道」です。手前の山は高麗山、右の鋭角な山は大山、その間に富士山が顔をのぞかせています。街道はくねりながら遠ざかり奥行を演出しています。松の脇を通過する飛脚の表情も注目です。

寅次郎、高麗山には小学校の遠足で登りました。668年(天智天皇の7年)に唐・新羅連合軍により国を滅ぼされた高句麗の王族と従者の一部が渡来し、日本各地に移住。大磯には王族の一人、若光に率いられた有力な集団が上陸して高麗山のふもとに住み、のちに付近の開墾に尽力したそうです。

中国から落花生が渡来した明治初期から平塚周辺はその最適な栽培地で、落花生を乾燥させて味付けた味付落花生や生しらすをイグサのすだれに干す伝統的な製法の平塚産たたみいわしは平塚の名物です。

毎日の運動不足対策や事情で例会に参加できない場合はマイお散歩コースを見つけ、その歩いた距離を累計して楽しむバーチャルウォークを始めませんか。FWAのHP「YR・四季の道」の「バーチャルウォークコーナー」は各コースが紹介され、各コースシートが印刷できます。

今回の東海道五十三次のコースシートは1マス2kmを塗りつぶして進みます。マイペースの散歩で塗りつぶしていく楽しみがあります。

また「ひとり歩きコーナー」には地図付きの各コースがありますので選んで印刷してご利用ください。

平野 寅次郎 拝